第３講　2025年度 試作問題 第3問

第３問　次の**場面１**および後の**場面２・３**の文章を読み，後の問い（**問１～９**）に答えよ。（配点　28）

場面１　生徒A，生徒Bおよび途中で一緒になった生徒Cが，学校からの帰り道で歩きながら次の会話をしている。

A：今日は月がきれいだね。そういえばこの前の皆既月食，見た？

B：いや，曇りで見えなかったよ。でも，月食は不吉だと考えられていた時代もあったようだし，別に見たいとも思わなかったな。

A：月食なんてただの自然現象だから，不吉なんて考えは迷信だよ。天体の動きを予測したり説明したりできるのは科学のおかげだし，やっぱりⓐ近代科学を支えた自然観は真実なんじゃないかな。

C：それって授業で習った，「自然の数学化」のことだね。そういう自然観に基づいて天体にまで望遠鏡を向けるような科学が，発見を重ね，多くの自然現象を予測可能にしたけれど，自然科学では説明できないこともあるよね。たとえば，ⓑ人間はどんな権利をもっているのかといったことについては，社会思想では説明できるけど，自然科学では説明できないんじゃないかな。

A：個人や社会についてのさまざまなデータがそろえば，物質の状態や使用法を科学的に説明するのと同じように，幸福を科学的に定義したり，個人がもっている能力にあったその人の権利を科学的に根拠づけたり，その権利を守るための科学的立法と運用が始まるかもしれないね。

C：そこまで科学が発達すると，ⓒ人と人との対立や争いといった試行錯誤を経て教養や歴史がつくられるという世界観も変わるのかな。

問１　下線部ⓐで述べられている自然観を説明した記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 9

① 自然を，神の身体と考え，人間はその仕組みを実験・観察・推理によって解明しようとすること自体を慎むべきであるという自然観。

② 自然を，どんな素材が何の目的のために，どんな形をめざして，どんな作用で変化するのかを解明することで理解できる生命的運動とみなす自然観。

③ 自然の現象は，時計の仕組みと同じように，人間が計測・計量化できる要素相互の因果関係を解明することによって説明できると考える自然観。

④ 自然の現象は，そのメカニズムの目的や意味を伝統的かつ宗教的な知見と照らし合わせることを通じて理解されるべきと考える自然観。

問２　下線部ⓑに関連して，市民革命期の思想に大きな影響を与えた同一思想家の考えを次の**ア**～**カ**の考えのうちから二つ選ぶ場合，その組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 10

ア　人の自然状態は，自己保存の欲求を満たそうとするために戦争状態になる。

イ　人の自己保存の欲求は，自然状態でも思いやりによって補正されている。

ウ　人は，自然状態でも，みずからの人格に対する所有権をもっており，人格を用いて労働した成果への所有権をもっている。

エ　国王が国家を支配する権利は，神から授けられたものであり，人は無条件にこれに服従すべきである。

オ　人は，自然権の一部を政府に信託することに自発的に同意するときにのみ，支配される。

カ　人は，自発的な契約や同意によってではなく，必要上習慣的に政府に服従しているにすぎない。

① **アとオ**　② **イとカ**　③ **ウとオ**　④ **エとカ**

問３　下線部ⓒに関して，生徒Cは，クラスのオンライン掲示板に次の記事を投稿し，クラスのみんなに問いかけた。**記事**中の空欄 [ア] ～ [ウ] に当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 [11]

記事

＊＊月＊＊日　投稿者　C

　科学はなんでも説明できるようになるのでしょうか。友人は，個々の人間がどんな権利をもつかについても，科学的説明が可能となるというのです。個人がもっている能力を科学的に計測し，その人の能力にあった権利を与えることができるようになれば，対立や争いを減らし，個人と社会全体の幸福量を合理的に増やすことができるようになると彼はいいます。でも，この考え方は，精神が [ア] を実現する過程や運動として人間の歴史をとらえるヘーゲルのような考え方と異なると思いました。

「倫理」の授業で学習したのですが，ヘーゲルは，個人の道徳性と社会の法が総合されて [ア] が実現される共同体を「人倫」と呼びました。それは家族，市民社会， [イ] の三つの段階からなるといいます。そして，各自が自分の利益を追求することで対立や争いのたえない市民社会においても，人は自分の内面にいだくものを外に向けて表現する [ウ] を通じて自己への自覚を深め，自らを形成していくとヘーゲルは考えました。また， [イ] は，家族の結びつきと市民社会における個人の独立性を総合するところに成立するとのことでした。対立や争いといった試行錯誤を経て教養や歴史がつくられるという考え方は，科学が発達すると迷信になるのでしょうか？科学の発達は，私たちの世界観をどのように変えるのでしょうか？みんなはどう思いますか？

① **ア**　平等　**イ**　企業　**ウ**　止揚
② **ア**　自由　**イ**　国家　**ウ**　労働
③ **ア**　平等　**イ**　国家　**ウ**　労働
④ **ア**　自由　**イ**　企業　**ウ**　止揚

場面２　先の会話の翌日，生徒Bは，気になっていた西洋近代とは異なる自然観や世界観について図書館で調べ，次の**メモ**を作成した。

メモ

＊＊月＊＊日
・近代の自然観が「当たり前」でなかった時代には，どんな自然観や世界観があったのだろう。
・古代ギリシャでは最初，神話的世界観があった。さまざまな自然現象や技能や能力までが神格化されて，個性豊かな神々の世界が創造されていた。
・その一方で，この世界は神々によって動かされ，支配されているという考えに満足できない人たちもいて，そのような人たちは，ⓓこの世界の成り立ちを論理（ロゴス）で捉えようとした。こうした考えの中には，現代の物理学が原子・分子や素粒子などから世界を説明しようとしたり，自然界の秩序を数式化して説明しようとしたりしていることに通じる面がある。
・そう考えてみると，古代ギリシャにはすでに，宗教的世界観と近代科学に通じる学問的世界観の両方が存在していたことがわかる。
・もっと視野を広げてみると，ⓔ他の地域でも，さまざまな種類の世界観があったようだ。
・いろいろな地域の古代思想を調べてみると，人間が死んだらどうなるのかなど，ⓕ死に関するさまざまな考えがあることがわかる。肉体のことはわかっても意識や霊魂といったものは目に見えないから，そういうものも，科学的説明では扱えない問題だったのだろう。だから，古代ギリシャで学問が発達しても，キリスト教は西欧世界に広まったのだろう。

問４　下線部ⓓに関して，古代ギリシャの哲学的世界観を示す記述として，**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 12

① 世界は何でできているのかを考え，万物の元のものを水と説いた。
② 世界は変化し続けていると考えて，火を生成流転の象徴と考えた。
③ 心が善悪などの作為のない状態になれば，万物はみな同じである。
④ 世界の原理は見えない調和であり，「数と数における比例」である。

問５　下線部ⓔに関して，古代インドで発生したと考えられる世界観を示す記述を，次の**ア～オ**のうちから二つ選び，その組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 13

ア　宇宙の根本の原理と個々の人間の根本にある実体は本質的に同一である。
イ　神から選ばれた民は，神から与えられた律法を厳格に守ることで救われる。
ウ　世界のすべての現象は，陰・陽という二つの気の関係から生じると考えた。
エ　輪廻の世界から解放されるには，苦行と不殺生を守る必要があると考えた。
オ　信者には，並ぶものなき絶対神への信仰を含む六つの信仰対象が存在する。

① **ア**と**イ**
② **ア**と**エ**
③ **イ**と**オ**
④ **ウ**と**オ**

問６　下線部ⓕに関して，次の**資料**は，生徒Ｂが，図書館で見つけた本の抜粋を，原意を損なわないように書き直したものである。**資料**の説明として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 14

資料

・この身体は泡（あわ）のようなものだと知り，蜃気楼（しんきろう）のようなはかない本性のものであると，さとったならば，悪魔の花の矢を断ち切って死王が見ることのできないところに行くだろう。

・世の中は泡のようであると見よ。世の中は蜃気楼のようであると見よ。世の中をこのように見る人を，死王は見ることがない。

・こどもや家畜のことに気を奪われて心がそれに執着している人を，死はさらって行く。まるで眠っている村を押し流す大洪水のように。

①　これは，肉体は魂の牢獄であるとして，魂への配慮の大切さを説き，死は魂が肉体から解放されることだとしたプラトンの考えである。

②　これは，現実社会における人間関係を重視し，生についてよくわからないのにどうして死のことがわかろうかと言った孔子の考えである。

③　これは，真理をさとり，欲望を離れた人は，苦しみの世界から解放され，死の支配を受けなくなるとしたゴータマ・シッダッタの考えである。

④　これは，信仰に目覚め，キリストがその内に生きている人は，体は罪のゆえに死んでも霊は義のゆえに生きるとしたパウロの考えである。

場面３　数日後，登校中に再び出会った生徒A，生徒B，生徒Cは，歩きながら次の会話をしている。

B：そう言えば，この間，帰り道で会って少し話したよね。ちょっと気になって次の日，図書館でいろいろ調べてみたんだ。

A：そうなんだ。何か面白いことが分かったのかな。

B：うん，いろいろわかったよ。たとえば，西洋だと古代ギリシャではいろいろな学問がある程度発達していたよね。でも，キリスト教が広まったということは，やっぱり何か学問的知識とは別のものが必要とされていたんじゃないかと思うんだ。

A：でも，それは古い時代の話だよね。現代では科学がみんな解決してくれるんじゃないのかな。今はまだそうでなくても，いずれはそうなるんじゃないかなと思うけど。

C：それは科学万能主義というものだね。でも，逆に科学時代になってから出てきた難しい問題もあるんじゃないのかな。ニーチェが言ったように，現代人はⓖニヒリズムに陥ってしまうという問題とか。確か先生が授業で資料を配っていたよね。

A：そうだね、「倫理」の授業で学習したあれだね。でも，ニーチェは，「超人」という解決法を用意していたよ。

B：でも，「超人」って，英語でいえば「スーパーマン」だから，ⓗ人間の限界を超えるってことだよね。そんなことは，誰にでもできるわけじゃないんじゃないかなあ。

A：そう言われればそうだなあ。でもそうすると，昔からのⓘ問題は，科学時代の今でも問題であり続けているということになるのかな。

問７　下線部⑧に関して，次の**資料**は，「倫理」の授業中に，先生が配付したものである。後の**ア**～**エ**のうち，**資料**で示されているニヒリズムの発生過程の具体例として当てはまるものはどれか。当てはまるものをすべて選び，その組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 15

資料

○ニーチェの遺稿から

心理学的状態としてのニヒリズムは，まず第一に，いっさいの出来事のなかに実際には存在しないひとつの「意味」をさがし求め，その結果その探求者がついに気力を失うにいたった場合に生じざるをえないだろう。

（中略）

これらすべてに共通しているのは，なにかあるものは過程そのものによって達成されるはずだという考え方である。――そしていまや生成で目差されているものはなにもなく，達成されるものもなにもないという事態がはっきりする……かくしてニヒリズムの原因としてのいわゆる生成の目的に関し幻滅することになる。この幻滅はひとつのまったく特定の目的に関しても，また一般的に，全「発展」に関わるこれまでのあらゆる目的仮説が挫折したという洞察に関しても同じように起こる。（――人間はもはや生成の協力者ではなく，いわんや生成の中心点などではない）

ア　歴史的出来事は意味をもつが，それは解釈の仕方によって変化するので確定できず，そこに客観的意味を見いだそうと努力するとき，その試みは失敗してニヒリズムが到来する。

イ　この世界は神によって創造され，世界の歴史は神の摂理に導かれて目的に向かって進むという信仰が失われたとき，世界の出来事や人生の意味が見失われてニヒリズムが到来する。

ウ　科学的研究によって開発される製品には，その最初の使用目的が平和的なものであっても軍事的目的に転用可能なものがあるため，科学への信頼が失われてニヒリズムが到来する。

エ　実存としての人間には予め定められた本質がないため，自ら生きる目的を主体的に設定するが，目的達成までの道のりは険しいため，努力する気力が失われてニヒリズムが到来する。

① **イ**
② **ウ**
③ **ア**と**ウ**
④ **イ**と**エ**
⑤ **ア**と**イ**と**エ**
⑥ **ア**と**ウ**と**エ**

問８　下線部ⓗに関して，次の**ア**～**エ**の中で，20 世紀の思想家が唱え始めた主張として正しいものはどれか。当てはまるものをすべて選び，その組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 16

ア　人間は原罪を負っているため，人間の救済は自らの自由意志によってではなく，神の無償の愛である恩寵による。

イ　人間は世界の中に投げ込まれ，死へと向かう存在であるが，その死と向き合うことで，本来の自己に立ち返る。

ウ　人間の悲劇は，偏見や独断によって生じるから，「私は何を知るか」という反省を謙虚に繰り返さねばならない。

エ　人間は死，苦悩，争い，罪責といった限界状況にぶつかって挫折するが，それを通して永遠の超越者に出会う。

① **イ**　② **ア**と**ウ**　③ **イ**と**エ**　④ **ア**と**ウ**と**エ**

問９　下線部ⓘに関して，生徒Aは，この「問題」についてクラスのオンライン掲示板に次の**記事**を投稿し，クラスの生徒に伝えることにした。**記事**中の空欄 ア ～ ウ に当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 17

記事

＊＊月＊＊日　投稿者　A

　今日は，ここ数日，Bさん，Cさんと議論していることを投稿します。帰り道にたまたま三人が一緒になったのですが，月食が不吉だという話から，自然科学的な見方以外は迷信だと言えるのかという話になりました。人間の権利も自然科学で説明できるかという疑問からCさんはいろいろ考えてこの掲示板に投稿していました。後でBさんが図書館で調べると，似たような問題は西洋でも東洋でも昔からあったことがわかりました。たとえば古代ギリシャではさまざまな学問が発達していましたが，それでも地中海地方にキリスト教が広まったので，人間の ア のみによって得られる真理とは別の何かが求められていたとも考えられます。近代以降になると，この問題は イ と宗教の関係をめぐる問題になります。

　イ で解決される事柄がますます増える一方で，ニヒリズムなどの新しい問題も生じました。 ウ ものに関する思索は今も続けられていて，私たちもこのことをさらに調べたり考えたりしたいと思いました。

① ア 感　性　イ 政　治　ウ 人間の営為とそれを超える
② ア 知　性　イ 政　治　ウ 学問的知識で説明できない
③ ア 感　性　イ 政　治　ウ 東洋と西洋双方に普遍的な
④ ア 知　性　イ 科　学　ウ 人間の営為とそれを超える
⑤ ア 感　性　イ 科　学　ウ 学問的知識で説明できない
⑥ ア 知　性　イ 科　学　ウ 東洋と西洋双方に普遍的な

第 3 講　2025年度 試作問題 第 3 問　解答

(全大問合計で 100 点満点)

問題番号(配点)	設　問	解答番号	正　解	配　点
第 3 問 (28)	1	9	3	3
	2	10	3	3
	3	11	2	3
	4	12	3	3
	5	13	2	3
	6	14	3	3
	7	15	1	3
	8	16	3	3
	9	17	4	4